



# 森のなかま

2023年 9月号

NO. 183 (継続328号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 【森林技術部会主催】

## 下刈り研修会

日時： 2023年 6月 25日(日)

場所： 塚原ボランティアフィールド

講師： 大橋 聡⑪、江上 徹⑬、斉藤 夏葉⑬、石井 裕⑮

参加者： 滝澤⑤、岩田⑭、水野⑭、大見⑮、堀口⑯、森本⑰、広浜⑰、野口⑰ 8名

(記：野口 忠志⑰、写真：岩田 典義⑭)

天候にも恵まれ参加者12名(講師含む)で広葉樹植栽後3年の塚原ボランティアフィールドの植栽地で下刈り研修会が実施されましたのでご報告致します。

実技実習前にインストラクターとして参加する時の心得を2つ学びました。

まず、ひとつは、参加者に下草刈りは、

- ① 蜂、蛇(マムシ)、ダニ、ヒルなど危険な生物が生息している
- ② タケニグサなど皮膚がかぶれる、ノイバラなどトゲのある木、カヤなど皮膚を傷つける植物が茂っている
- ③ 日差しを遮る樹木がないので熱中症になる可能性がある
- ④ カマは刃物、長柄もあり自身の手足や隣で作業している人を傷つけることがある危険な要素の潜む作業であることを参加者に徹底する。

もうひとつは、作業する場所と参加数によってどこをどのように刈っていくかすぐに判断して参加者に指示することが大切であるということです。

実技実習としては、

I 作業地への安全な移動方法

II どのようなところに危険が潜んでいるか

III 植栽した木を探し、植栽した広葉樹を伐採しないように坪刈りしてから周辺を大鎌で刈るといった植栽木を大切に扱う下刈りの方法を学んだ。



下刈りする前は、風が通らず、直射日光で暑さを感じたが、ツル、笹、うどなどの草木を刈ると心地よい風が通り疲れを癒やしてくれました。

また、下刈り後は、近くに沢で手や顔を洗うことが出来て大変気持ちよかったです。

以前受けたインストラクター養成講座の下刈り研修では、熱中症気味になりつらい下刈りであったが、今回は大変清々しい気持ちで下刈りを終えることができた。



## 2023 年度水生生物調査活動

1. 日時：2023 年 6 月 25 日(日)9：00～15：00 場所：「やどりき水源林」 寄沢中部～上部
2. 参加インストラクター：16 名  
井出① (L)、菊地①、水口⑨、上宮田⑩、牧石⑭、西岡⑭、河西⑭、國弘⑭、相澤⑮、飛田⑮、石垣⑮、小国⑰、三浦⑰、大谷⑰、高谷⑰、内田⑰
3. 目的：寄沢中流から上流部の水生生物調査
4. 主催：やどりき事業部土壌水生班

(記 井出 恒夫①)

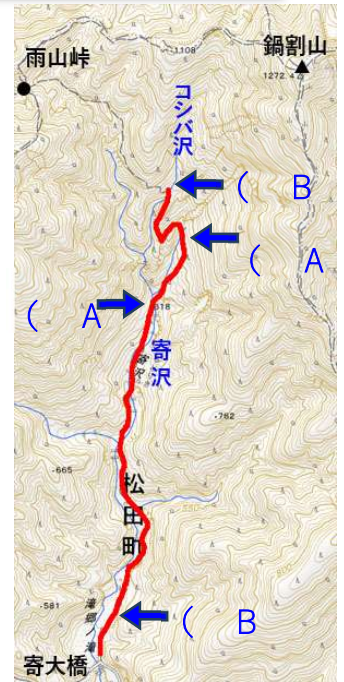
過去の記録を紐解いていくと、やどりき水源林で最初に水生生物観察が行われたのが 2002 年。それ以降調査活動は、主に広場前の寄沢か後沢出合で行われてきました。ここ数年、上流での調査を計画しましたが、台風による登山道の荒廃もあり調査を控えていました。最近、登山道の整備が進み、今年ようやく実行に移すことにしました。

実施にあたり 1 週間前に下見を行い、登山道の状況を確認し、調査場所の目星も付け、16 名で調査活動を行うことにしました。

16 名を A 班と B 班に分け、A 班は寄沢上流域手前の支流と中上流域の寄沢本流、B 班はさらに上流域のコシバ沢で調査を行いました。

A 班の寄沢上流域手前の支流 (A 1) では、プラナリア、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、サワガニなど主だった水生生物は一通り確認でき、またガガンボの蛹を見つけるなど、成果のある調査を行うことができました。一方寄沢本流 (A 2) では小型の生物を見つけるにとどまり、沢の状況により生物の生息が大きく変わることが確認できました。ちなみに生物が多い上記支流はクマシデに覆われ、滝状の砂防堰や落葉が多い緩やかな流れ、岩がゴロゴロした所など変化にとんだ沢の形態で、少なかつた寄沢本流は樹木に覆われず、また水量が多く増水時に石や岩が流されるのか、生物の生息にはやや不向きな沢の状態でした。

なお今回の調査活動は、県河川モニタリング調査とタイアップして行いました。今後も連携して活動を行い、寄沢での水生生物調査活動をより深化していきたいと思ひます。



#### 「水生生物調査活動に参加して」

(記、写真 内田 祐子⑰)

B 班は、寄沢本流から 1 時間程登り、雨山峠手前の寄沢上流域 コシバ沢 (B 1) で調査活動を行いました。気温も湿度も高く移動中は汗が吹き出す程でしたが、時折吹き抜ける風はとても涼やかでした。

調査場所は、フサザクラ、シデ類、カエデ類など溪畔林に覆われた箇所、沢幅は狭く、水量は少ないものの、一雨降れば一瞬に急流となってしまう足場のとても悪い場所でした。

まずは COD 測定で、想定とおり全く綺麗な水であることが確認でき、水温は気温が高いことも影響しているのか、想像していたよりも高く 14.2℃でした。水生生物採取は、手分けして「ここぞ!」と思う場所でタモ網を使い採取後バットに移し、みんなで小さな水生生物を追いかけ拾い出し作業をしました。意外にもこんな上流でプラナリア、サワガニのほかたくさん水生生物を採取することができました。メンバーの姿は、まるで無邪気な子供のような様子でした。そして時間が許すならばもっと観察していきたい…と思ったのは、きっと私だけではないと思います(笑)



寄沢の上流域に行ったのは初めてでしたが、水生生物調査活動を通して、寄沢の水が綺麗なことを体感、実感することができました。なお沢での調査の後、モリアオガエルが産卵した枝下にある側溝内 (B 2) の卵塊を取り出し、県河川モニタリング調査のための DNA 抽出を行いました。

## 【やどりき事業部活動】

## 土壌生物調査研修会

日時：2023 年 7 月 23 日(日) 9:30~15:00

場所：やどりき水源林 寄沢 集会棟横

参加インストラクター：11 名

L 井出①、源島⑬、國弘⑭、飛田⑮、久次米⑯、内田⑰、大谷⑰、小国⑰、小池⑰、  
高谷⑰、柳沢⑰

主催：やどりき事業部土壌水生班

(記：小国 一男⑰、写真：井出①、國弘⑭、飛田⑮、小国⑰)

やどりき事業部の土壌水生班が主催する本年度第 3 回目の活動として、「土壌生物調査研修会」を夏  
のやどりき水源林において実施しました。第 1~2 回の水生生物に続き、今回は土壌生物が対象で、調  
査により同水源林の自然の豊かさを評価するとともに、採集手法や観察方法を習得することが目的です。

調査研修会に先立ち(7/19)、採集手法の一つである「落とし穴トラップ法」の  
仕掛けを、やどりき水源林内の 2 か所(広場横フェンス内、休憩棟奥)に埋めてお  
きました。(右の写真)3 種類のエサ別(鶏肉、さなぎ粉・チーズ、黒蜜)にしてお  
り計 6 セットです。



当日はインストラクターが 3 班構成となり、これらの仕掛けをエサ別に回収する  
ことから開始、併せてその周辺の土を決められた範囲(50cm×50cm×10cm)で  
採取しました。(右の写真)この土から二つ目の採集手法である「フルイ法」により  
土壌生物を探します。



回収した仕掛けと採取土を持ち集会棟横広場に移動、観察は  
テーブルに白いシートを敷いて行いました。「落とし穴トラップ  
法」で採集した生き物は、羽根のあるもの、飛び跳ねるものが  
いて手間取りますが、何とか捕まえてシャーレーに収容、場所  
別に記録します。「フルイ法」では採取した土を少しずつフルイ  
にかけ、落下した土に潜む生き物を見つけるのですが、小さい  
上になかなか動いてくれず、我慢比べでやっと捕まえることが  
できました。

午後は各班(エサ別)の記録を持ち寄って、指標「土壌生物調査のための簡易検索図」にて当水源林  
の自然の豊かさ評価を行いました。評価方法は土壌生物を「いい環境にいる虫たち」5 点、「そこそこい  
い環境にいる虫たち」3 点、「悪い環境にもいい環境にもいる虫たち」1 点で点数づけします。集計した  
ところ、広場横フェンス内は 39 点で「若い雑木林や人工林」、休憩棟奥は 59 点で「成熟した雑木林  
(二次林)」と、まずまずの結果となりました。(下の写真は採集した土壌生物の一部、○数字は点数)



ジムカデ⑥



ヤスデ⑥



センチコガネ③



ゾウムシ③



トビムシ①

研修会の最後は井出リーダーによるプロジェクターを使った講習で、本日の調査研修テーマであるところの土壌生物の、そもそもの「土壌」について、その定義、構成成分、積層、すきま、水の浸み込みやすさ、またそれらをつくる土壌生物の役割について講話を受けました。

土壌生物観察は学校関連のネットワーク活動や環境教室、やどりき水源林のつどい等で取り上げられるテーマです。今回の調査研修をそれらの活動に役立てていきたいと思ひます。



## 活動短信

今回の掲載はR5年6月10日からR5年6月21日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

### 9月（長月）（旧暦8月葉月）の 二十四節気と雑節、鎌倉の田んぼ

二十四節気：白露9/8 秋分9/23

雑節 二百十日(9/1)。二百十日は立春から数えて210日目。八朔や二百二十日とならんで嵐がやってくる農家の厄日とされています。田んぼ 稲の花が咲き、穂が垂れてきました。水は何とか入りましたが暑さが心配。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

## ◆ 活動団体・活動名 等

日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

## ◆ 神奈川県トヨタ自動車株式会社

## レクサスオーナー向けやどりきトレッキング

日 令和5年6月10日(土)9:30~12:00 曇り

場 やどりき水源林

参 大人50名 子供5名 スタッフ10名

県 県環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源事業グループ 宮崎様 黒田様

イ L 井出①、野牛⑧、國弘⑭、飛田⑬、岡村⑯、

大谷⑰、田島⑰、野口⑰ 8名

今回のトヨタ自動車さんの活動は、ミロクキャンプ場をベースに、色々な活動の一環として午前中にトレッキングを行うというもので、全員集合して挨拶というものはなく、参加者が来た順に班ごとに案内する、という形式で行われた。

9:15からキャンプ場で受け付けを開始し、集まった順に12人程度1Gとし(×7班)、レクサススタッフが1名ついて 管理棟まで歩いて移動。その後、班ごとにインストラクターが1名つき、準備運動を行った後、Bコ



ースの案内を行った。主催者の希望により、「水源林の役割」「トヨタの森での活動の紹介」「木々のにおいや森の香り・クロモジの紹介」を中心に、班ごとに森林や植物・生き物の話をしてトレッキングを楽しんでもらった。

トレッキング終了後に、水生生物サンプルの見学を行った。プラナリアの再生などの話に皆さん興味を持たれた様子。特に子供たちは、カニなどの生き物に興味津々。主催者も次回行なう時は、水生生物の観察も活動の中に取り入れたいとのことでした。

(記 井出 恒夫①、写真 県水源環境保全課 黒田様)

かながわすくちゃん Twitterは下記URLで見ることができます。

かながわの水源環境の  
保全・再生をめざして

[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)

## ◆ 横浜市立能見台南小学校5年生

日 令和5年6月15日(木) 9:00~12:00

場 足柄ふれあいの森(雨バージョン)

参 学童72名

学 門馬先生 他校長先生、担任5名

関 県立足柄ふれあいの森 まっさん様

イ L 松石⑬、松本⑪、牧石⑭、内野⑨、小林⑯、

徳岡⑪、滝澤⑤、岩田⑭、竹内⑮

風切り水源林で間伐体験学習を10時から実施計画の(G4)NW 学校活動は天候不安定の為、前日夜半まで判断つかない天候の中、学校判断をリーダーの決定で急きょ予定していた足柄ふれあいの村でのクラフト(杉焼き板)制作と森林講話を行うことに決まった。

そこで、集合時間が1時間早まり、集合場所も変更の案内が届いたのは前日午後だった。ふれあいの村の宿泊コテージで林間学校を行う生徒さんに朝合流してスムー



スに活動を進行する選択だったが、ベテランのインストラクターの落ち着いた対応で無理のない運営が行われた。9:00 木作業館前広場に生徒さんと先生の皆様集



合後、リーダー挨拶の後、各班のインストラクターが1組4班、2組4班、計8名紹介された。早速、焼き板作業説明をふれあいの村スタッフの「まっさん」が面白く説明され、各班に分かれインストラクターが指導者として付き、バーナーを着火し「ゴー」という火に火傷しない様注意を促し、杉板を両面サイドと黒く焦がした後、タワシで炭取り、それを布で拭いてテカリが出るまで磨くと、年輪の中から思わぬ風景が現れ、「東京スカイツリーだ！」など奇声上がる。生涯の宝物として大事にして欲しいと願った。

その後、各班9名の学童と、それぞれの気に入った場



所に陣取り、事前学習で学習した「森のはたらき」を森林の中で実践。空気や香りや触った感触、色や雨を感じながら林業・水源林・鳥・昆虫・間伐・SDGsなど学童の質問に答えながら持参した資料と話術で目が点で真剣に話しを聞く児童が目に焼き付いた今回の体験学習であった。

間伐体験学習をやりたかったと言う声が、今後の間伐体験の大事さを再認識した。

短歌：梅雨時の予報通りの林間学校 こだます奇声に  
ふと我帰る 小林照夫

(記 小林 照夫<sup>⑩</sup> 写真 松石 藤夫<sup>⑬</sup>)

#### ◆ 伯東株式会社

#### 第15回森林活動(間伐)

日 令和5年6月17日(日) 10:00~12:50 晴

場 塚原ボランティアフィールド(南足柄市)

参 10名(大人9名、お子様1名)

県 水源環境保全課 黒田様、松村様

イ L高谷<sup>⑰</sup>、山崎<sup>⑰</sup>、松本<sup>⑰</sup>

コロナ禍の影響で2019年以来の開催となった。前週は中止となり、梅雨の合間の快晴で1週間待った甲斐がありました。駐車場付近で準備体操後、装備を装着して現場に移動。2班に分かれて作業開始。本日は直径15-20cm程度のヒノキを各班で1本伐ります。インストラクターから、下草が生えない森林の状態、間伐の意味合い、作業の段取りを説明した後に、ロープ掛けから着手しました。それが終わると、伐倒方向に向けて、受け口、追い口と交代でノコを入れていきます。ノコを真っ直ぐ水平に引く、身体の向きを調整するなどインストラクターが時折手本を見せながら細かい指導をしていきます。参加の皆さんは、大ノコが波を打って硬いヒノキに苦勞されていましたが、段々と上達されていきました。



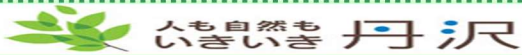
2班とも伐倒目標に正確に倒れ、隣木に若干掛かりましたが、力を合わせてロープを引くときれいに倒れてく





れました。枝払い、玉切り、筋置きを行い、時間に余裕を持って作業を終えることができました。皆さんに協力していただき、装備の手入れ、倉庫への保管を終えて、看板の前で記念撮影をしました。ノコギリの扱いが難しかった、森林の育て方を教えていただいた、用具の手入れの大切さが分かったなど感想をいただき、初めて間伐作業を経験された方にもよい活動になったようです。

(記 高谷 秀史⑩、写真は伯東様より提供)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。<http://www.tanzawasaisei.jp/>

#### ◆ 第4回 県民参加の森林づくり(下刈)

日 令和5年6月17日(土)8:30~15:30

場 秦野市菩提(緑の祭典植栽地・秦野市表丹沢野外活動センター)

参 51名

市 腰塚様、川上様

財 倉野様、南橋様、藤本様

看 佃様

ス 神奈川県森林組合連合会

イ L 鈴木敏⑧、柏倉④、久保⑧、西出⑫、岩田⑭、久次米⑯、大谷⑰、小野寺⑰、鶴田⑰、藤田⑰、文原⑰

梅雨の晴れ間で、天気の良い日の作業となりました。気温も高かったので熱中症対策で塩分補給・水分補給しながら、また、季節柄ハチやヤマビルには注意しながらの作業です。

秦野駅集合でバスで移動、あるいは現地集合で、表丹沢野外活動センターに全員が集合し、今年の緑の祭典で植栽したエリアの下刈を実施しました。今までに何度か下刈がされているということでしたが、背丈を超える下草で植栽木が見えないほどでした。初心者の方も含め、順調に作業が進み、予定していた12時より早く植栽地全体の下刈を終了しました。最初の鬱蒼とした草原がすっきりと片付き、まだ若い植栽木が立ち並ぶ様子を見て、みなさん達成感を感じているようでした。

やはりハチとヤマビルは出現し、刺されたり血を吸われたり被害はありましたが、看護師さんの手当により、大事に至ることはありませんでした。

午後はボランティア交流会が開催され、「NPO法人 四十八瀬川自然村」「NPO法人 自然塾丹沢ドン会」「表丹沢菩提里山づくりの会」の活動の紹介がありました。

(記 藤田 あずさ⑰)

#### ◆ 四季の森小学校

「水源の森を守る人々の努力を知ろう」

日 令和5年6月20日(火)9:00~11:30 晴れ

場 愛川ふれあいの村

参 73名(教師8名 4年生36名 5年生29名)

財 古舘様 倉野様

イ L 石垣⑮、小野⑦、松本⑪、西出⑫、西岡⑭、牧石⑭、小池⑰

梅雨の合間の晴天の下、4年・5年生児童混合のチームが揃いました。

「丸太切り」と「自然体感」各3班に分かれ、さあスタートです。

普段あまり接することのない動植物に興味津々の児童達は、アリジゴクにアリを落としじっと待ち、放置されたハチの巣の造形に見入り、アリがまゆを運ぶ姿を皆と観察し、「これは何？」と不思議発見の連続となりました。

道中山ビルに興奮。しかしスズメバチ遭遇の際にはジッと静かにやり過ごし事なきを得ました。

丸太切りでは、皮をむいて綺麗にした後に切る班もあり、全員で協力し楽しみながらの作業となりました。



終わりの会では「とうもろこし(テンナンショウ)が面白かった!」「キノコをたくさん説明してくれたので色々知ることが出来ました」等々活発な意見発表があり、子供たちが自然に触れ過ごした時間となったことが伝わってきました。





(記、写真 石垣 桃栄⑬)

◆ 洋光台第四小学校5年生 (間伐)

- 日 令和5年6月21日 9:30~12:30 曇り晴れ
- 場 長竹承継分収林
- 参 5学年46名 引率教員8名
- 財 古館様
- イ L内野⑨、佐藤⑤、松本⑪、西出⑫、松石⑬、  
牧石⑭、堀口⑯

今回はバスの都合により乗降場所はローソン舟久保店の駐車場となり、始め・終わりの会も他の車に注意しながら駐車場で短時間で行いました。



生徒を6班(一班7~8名)に分け引率の先生各1名と共に班毎に道具の配布場所まで移動。

道具を装着し足元を確認すると足首が隠れないスニーカーソックスを履いている生徒が多くいました。

間伐場所は最上部のため比較的長い時間上り坂を進みましたが、遅れる生徒もなく間伐場所に到着。道具の確

認・作業内容、注意事項の説明と水分補給を行いました。



すでに生徒の足元にヒルが数匹取り付いており、1名は足首を噛まれてしまっていたため忌避剤で除去し、引率の先生による消毒液の塗布で対応をしました。

他の班ではヒルは少なかったとの報告もあり場所により状況が異なると感じました。

実作業では天然林・人工林の違い、間伐の目的等は学校で事前に授業を実施済みだったため、順番に間伐ノコを入れさせる。追い口を入れたあと全員でロープを引き、途中まで倒れたところで掛り木となったが無事伐倒でき、枝払い、玉切り、コースターづくりを実施。各自コースターを持ち帰ることができました。

到着が予定時刻より若干遅れスタートしましたが、間伐、コースターづくりまでの作業を予定通りの時間で終わらせることができました。作業後には『楽しかった、またやりたい』という声が多くありました。普段できない体験をしたことで充実した時間を過ごせたようで我々インストラクターに大きく手を振りながらバスは宿泊学習先の愛川ふれあいの森に出発しました。

(記：堀口 俊司⑯ 写真：内野 ミドリ⑨)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

森のめぐみの掲載は  
今月号はありません。  
次掲載は10月号です。

森のめぐみ シリーズ

### やどりき水源林ミニガイド

#### 「森の案内人」

森の案内人が土日に案内をしています。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

#### 「水源林ニュース」

8 月号「木立を抜け清流と甘い香りに誘われて」を発行しました。こちらからご覧ください

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news206.pdf>



森のなかまは過去号もご覧になれます。  
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP 担当: 森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇  
会員読者の皆様から広く募集しています。

#### <広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫  
Mail: [skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)  
Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>  
笠原 かずみ  
Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<メール・手書き原稿送り先>  
【本誌】河西 静夫  
Mail: [skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)  
Tel : 090-1227-6209

【別冊】小国 一男  
Mail: [ka-oguni@ab.auone-net.jp](mailto:ka-oguni@ab.auone-net.jp)

原稿は随時受け付けています。

- やどりき水源林問合せ:  
(公財)かながわトラストみどり財団  
TEL : 045-412-2255  
FAX : 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>  
E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

(かながわ)森林インストラクターの会  
ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>  
E-mail [k-inst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp)

#### 編集後記

★ 昨年の夏に引き続き、今年 8 月再度蜂に刺されました。お墓の草取りをしている時、軍手の上から鋭い痛みを感じました。恐らくアシナガバチではなかったかと。痛みがどんどん増してきて、2 度目なので急変するのでは！と恐くなり、とっさに刺されたところを噛んで蜂の毒を出そうと試みしました。汗のしょっぱさと甘みもあったので、これが蜂の毒だったか定かではありませんが・・・何度も噛んで吸出し、腫れや痛みがなくなったので持っていた水で洗い流しました。もちろん、口の中も水ですすぎました。携帯電話所持なし、ポイズンリムーバー所持なし、他に人つけなし。自宅まで歩いて 7.8 分。こんな非常事態にとっさの判断。あなたならどうしますか？  
(小池)

★先日近所の商店街で買い物をしていたら、近くの電線に止まっていたカラスが急に飛び立ちました。何かと思ったらセミを追っていました。どうやら取り逃がしたようでしたが、以前は目につかなかったと思います。活動をとおして、いろいろな生き物に親しむようになったからかも知れません。  
(小国)

★今年は、7 月から 8 月にかけて、雨が降らず、鎌倉の公園の田んぼは、ひび割れができるほどでした。台風 7 号も西にそれて、雨の量も期待したほどではなかった一方、台風からの線状降水帯が中国地方に被害を与えました。何とか平均的に雨が降るようにはできないもんですかね。東京の水がめは、貯水率 30%のところもありますが、神奈川のダムは、ほぼ満水です。  
(黒川)

#### 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。  
便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**  
宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回/1 年間お届け致します。

#### 9 月 1 日は、防災の日

大正 12 年に発生した関東大震災から 100 年  
皆様 防災、減災意識を高めましょう。

編集人: 河西 静夫  
広報部: 松本保 笠原かずみ  
長尾晴子 竹内明彦 小林照夫  
小国一男 小池宗子 黒川敏史  
支援: 大原正志 吉田郁夫

★立秋を過ぎても暑さは相変わらず、一体いつまで暑いのだろうとウンザリしていたところ、夜半の雨で少し涼しくなりホッとしました。林縁ではボタンヅルやセンニンソウの白い花が盛りを迎えつつあり、確実に季節は進んでいるのだと実感しています。「暑さ寒さも彼岸まで」という慣用語がありますが、彼岸まで一月程度。来る秋を楽しみにしています。  
(河西)